

林光寺だより

真宗大谷派 林光寺広報委員会 発行
〒443-0104 愛知県蒲郡市形原町中屋敷 36
Tel.(0533)57-3283 mail. linkou@sk.aitai.ne.jp



「 観覧車の富士山 」 写真:近藤秀男 撮影地

(説明) 西浦サーキット横の海岸からラグーナを望むと、、、

一九七〇年に大阪万国博覧会が開催された。当時九歳だった私は、母親がどんな気持ちで体調の悪い父を支えながら万博に連れて行ったのかも知らずに、頭の上を動いているカプセルの乗り物に乗りたいたって困らせた。大行列で乗れなくて、仕方なく万博のワッペンが付いたカウボーイハットを買ってもらってご満悦だった。翌年十一月に父は亡くなり、父と行った最後の旅行である大阪万博は、ほろ苦い思い出として心に残っている。

「人類の進歩と調和」のテーマで開かれた大阪万博は、アメリカ館にアポロ十五号が採取した「月の石」が展示されるなど、心おどるものだった。当時の日本は、高度経済成長の時代で、一九六四年の東京オリンピック、東海道新幹線や高速道路の開通、自家用車やカラーテレビの普及など、世界に追いつけ追い越せと、右肩上がりに進歩していった時代で、誰もが将来に夢を描いていた時代だったように思う。

それから五十五年が過ぎて、今年大阪万博が始まったが、私にはかつてのような胸躍る思いがない。人類の進歩どころか、若者が将来に夢を描くこともできないほど、この世界は行き詰まってしまっているように見えるのは私だけだろうか。

親鸞聖人の「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」という金言は、まさに今の時代を言い当てている。科学技術は進歩したが、人間の本质は変わらず、科学を駆使した戦争は止まない。「人類の進歩と調和」とは何だったのか、一度立ち止まって問い直す必要がある。(祐徹)

二〇二四年 報恩講話 (要約)

おほしえしん 大橋恵真 師 (柏原市遠慶寺住職)

みなさん、本願とは何だと思えますか。私はある先生から、本願とは本当の願いだと教わりました。

私たちが普段持っている願いは欲望ではないでしょうか。仏教では、欲を願とは言わないのです。欲というのは、人間の浅いところにある願いであり、キリがないので決して満足することはありません。そのような世界を餓鬼道と言い、その有様が『仏説無量寿経』には、こう書かれています。

適 一つあればまた一つ少けぬ。これあればこれ少けぬ。齊等にあらんことを思ふ。適 具々にあらんと欲せば、すなわちまた糜散しぬ。…身心俱に勞れて坐

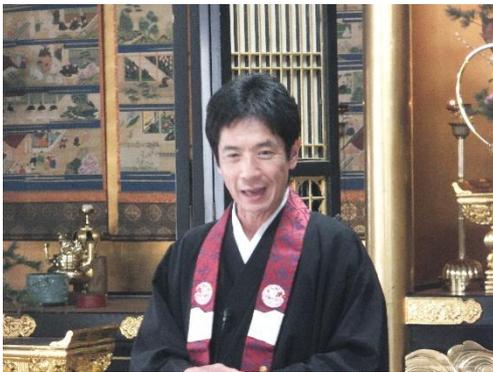
起安からず。

(一つ揃ったと思ったらまたあれが無くなっていく。自分の欲望にぴったり合うようになってほしい。これで十分だと思ったらまた散っていく。…身も心も疲れていつでも心休まる時がない。)

お釈迦様の時代から人間は変わっていないです。

それに対して本願とは、お釈迦様が悟りを開いて見抜かれた、人間が自身では分からない心の深いところにある願いです。

私の思い通りになったら幸せだというのは、人間の本能です。私たちは、そのために外の条件を私の欲望に合わせていくようにします。このようなこと



を仏教では外道といいます。それに対して、仏道(内観道)というのは、思い通りにならないのは自分自身の心が問題であり、それがどのように問題であるのかを仏教に尋ねていく道です。自分で自分の内を観ることはできません。なので、何度も仏教を聞いて気づかされるしかないのです。本来は、私たちの欲望が求めるものなど無くても生きていけるはずですが。しかし、私たちは本願に目覚めることなく、目先の欲望に振り回されながら心なくして生きてしまっています。それを超えていくには、お釈迦様の教えをよく聞いて、自らの内に目覚めていくしかありません。『仏説無量寿経』の中に、

少 欲知足(欲少なくして足を知る)

という言葉があります。既に私に必要なものはすべて揃っているにも拘らず、私たちの姿はむしろ「欲多く足るを知らず」ではありませんか。「知足」ということに目覚めさせてくれるのが、南無阿弥陀仏の仏法に他ならないのです。

たけなか じしやう
竹中 慈祥 師 (米原市眞廣寺住職)

だいじだいひ
大慈大悲

この慈という言葉は、お釈迦様の時代では
マイトレーヤ(Maitreya)と言い、慈しむ、可愛
がる、大事に思う、育む、守るという意味です。
つまり、阿弥陀様は必ず守ってくださいとお
り、法蔵菩薩の姿で私たちがお念仏申すのを
待つてくださっています。そして、そのときに
は私たちをおさ損め取って捨てないとても優し
い仏様です。

しかし、それだけでは愛だけで終わってし
まいます。大慈大悲ですから、そこに悲しみが
あります。悲しみの元の言葉はカルナー
(karuna)と言い、うめき声と訳されます。

今回は、悲しみを主題として善ぜん鸞らん事件を
取り上げました。善鸞事件とは、親鸞聖人がご
長男である善鸞大徳と親子の縁を切られた
(義絶)事件です。

親鸞聖人が関東から京都にお戻りになられ、

その後関東で宗祖の教えと異なる教えが蔓延
しました。その混乱を収束すべく、善鸞が関東
で孤軍奮闘するのですが、教えを歪める教説
を広めてしまったことがきっかけで義絶する
に至ったと伝えられています。

このことから、善鸞は宗祖の教えを歪める
ようなひどいことをした悪者のようになって
いますが、本当にそうでしょうか。心理学の用
語にバイアスという言葉がありまして、認知
の歪み、偏りを意味します。例えば、ダニング
クルーガー効果というバイアスは、人間はい
かに謙虚であつても自分を過大評価し、他人
を見下しているという歪んだ認知のことです。
私たちは、バイアスの塊であり、物事を歪んで
しか見ていないのです。そのことを深く信じ
ることを機の深信と言います。私自身がいか
に愚かであるかを信じるところに法がやって
きます。

善鸞事件当時、親鸞聖人は八十歳、善鸞は三
十〜四十歳ほどです。宗祖の年齢から、おそら
く関東の門弟の多くは六十、七十歳以上だと
推察できます。その人達が、自分よりもはるか
に若い善鸞による教説を素直に聞けたでしょ

うか。関東の門弟も念仏の教えを歪めようと
は思っていなかったはずですが、そこに、教えを
伝えたくても聞いてもらえない善鸞と聞けな
い門弟との間に生まれた悲しみがあるのです。
誰も悪くないのですが、人間ひとりひとり
が持つ自己執着、相手への見下し、事実を都合
よく歪めて聞くバイアスのはたらきがあつた
のではないのでしょうか。

今日私が言いたい悲しみは、誰かが悪いこ
とをしている、世の中が歪んでいつているこ
とへの悲しみではなく、その世の中を作つて
いるのが私たちひとりひとりではないかとい
うことです。世の中がおかしいということは、
私もおかしいので
す。そこに帰って
こられるかが大切
です。阿弥陀様か
ら見た私たちは、
悲しい存在ではな
いでしょうか。



春季彼岸会法話

あおき かおる
青木 馨 師 (碧南市蓮成寺住職)

浄土真宗だけが「本尊」ということを問題にしているのではないか。

宗派はいっぱいある。宗派って昔からあるんです。法然上人が、親鸞聖人が入門された頃に浄土宗を起こされる。それに対して元々日本にある仏教の方から弾圧される。その結果が流罪にあう。親鸞聖人は越後に法然上人は土佐へということになる。これは「浄土宗」という宗を起こしたことにあると言うんですけれども、その時までの宗というのは、学問の学部のようなものだと思っても良いと思うんです。今私たちが思っているような宗とは違う。江戸時代になって今私たちが思っているような何々宗何々派の本山はここということをはつきりするんです。

江戸時代になりますと、真宗のご本尊って何だということ議論するような書物が出ています。親鸞聖人は、ご本尊は「帰命尽十方無碍光如来」「南無不可思議光如来」だったり「南無阿弥陀仏」。阿弥陀仏と言っても色も形も何もない法蔵菩薩が修行なさった結果の、応身仏だというような難しいことを書いたりされるんですけど。他の宗派は、本尊は何だっというんです。

浄土宗は結構座った阿弥陀さんが多いんですけど、私たち真宗の寺は皆この(立っている)スタイルなんです。けど、これは江戸時代になってからのご本尊であって、親鸞聖人は、おそらくこういうものには目を向けられなかったんではないかと思えます。法然上人は、阿弥陀さまのお姿を快慶という有名な仏師に作らせ、その体の中に当時関係した方々の名前が書いてある、そういったものが文化財として残っているんです。

ところが、親鸞聖人にはそういったものが一切残っていない。親鸞聖人の場合はお名号(みょうごう)は六点残っているんです。

親鸞聖人は、手を合わせて拝むという行為をなされなかったんではないか。これは、私の新説です。皆さんお参りするとき必ず手を合わせるでしょう。手を合わせてお参りしなかったらお参りしたような気がしませんよね。親鸞聖人のお姿の多くは数珠を握っている。手を合わせておられる親鸞聖人のお姿もあるにはあるんですけど、これは一遍上人の時宗の影響を受けていると思っっています。全国に時宗のお寺は四百くらいある。日本に念仏を唱えることが広まったのは、遊行(ゆぎょう)と言いますが、一遍上人の時宗の影響が大きいと思っっています。

どこの宗派でも浄土宗でも、お札とかお守りを買っていますけど、浄土真宗で売っ

るのを見たことがない。本願寺じゃなくても浄土真宗でそういうものを扱っている寺はないです。これは親鸞聖人の精神が伝わっている一つの証しですね。

覚如上人から蓮如上人までの間はいろんなご本尊がある。蓮如上人からは、皆さんの家にあるような掛け軸になる。こういう木仏のご本尊は、江戸時代からです。そういう変遷はあるけれども、ご本尊を踏み踏まないという文化が、たくさんさんの仏教の中で浄土真宗だけにはあったんです。

手を合わせたらどこかへ向かうと思っませんか？何にもない所で手を合わせます？手を合わせて合掌するのは、中国の善導大師の影響なんです。

親鸞聖人は、阿弥陀さまは光になって満ちみちていると。どこかにという話ではない。だから昔の人、爺ちゃん婆ちゃんたちは、どこに居っても「なんまんだぶ、なんまんだぶ」って言ってませんでしたか？そういう覚えのある方おいでると思っっています。これが親鸞聖人がおっしやったことに極めて近いんです。



インタビュー

おんどうぼう (11)

今回は、牧野篤司さんに津軽三味線と出会った
きっかけや魅力についてお話を聞きました。

まきの あつし
牧野 篤司 さん (形原町)

牧野さんには、二〇一七年林光寺の真宗の集いと、今月二〇日に豊橋別院の報徳会に黒澤博幸さんを招いて津軽三味線の演奏をお願いするお世話をしていただきました。

Q 牧野さんが津軽三味線に出会われたきっかけは？

牧野 二〇一三年三月にツアーで青森へ旅行にいったんです。弘前で二時間程の自由時間があつたんです。みんなは弘前城に行ったけど、私ら夫婦だけ調べてあつた黒石の「こみせ駅」っていう所へ行つたんです。そこで佐藤晶っていう子が津軽三味線を弾いてたんですよ。初めてそれを聴いたらものすごい感動して、それでその子とメール交換したんです。

Q 黒澤さんとの出会いは？

牧野 晶君が次の年、金木町で三味線の全国大会に出るって言うから応援に行つたんです。そこで黒澤さんといって、ここで三連覇したすごい方が居るからって、会わしてくれましたよ。挨拶に行つたらすごい気さくな方で、晶君に「ちょっと弾いてみる」って言って、音の調整をして教えるんです。自分のお弟子さんも出ている、対戦相手になる子にそうやって指導するのびっくりしたんです。それで晶君は三位になったんですよ。

Q 津軽三味線とは？

牧野 仁太坊(にたぼう)という目の不自由な人が、あの叩く弾き方で演奏して回つたのが始まりということですね。

Q 東北にどのくらい行かれるんですか？

牧野 コロナ前までは毎月くらい行ってました。盛岡のライブハウスに黒澤さんに連れて

行ってもらったら、山本恭司さんがエレキギ

ターライブをやつて、途中で黒澤さんがステージに呼ばれてギターと三味線の掛け合いが始まって。みんな大喜びですよ。

Q。そんなすごい方が気軽に来ていただけると、いいんですか？

牧野 青森でも金木の他に青森・弘前で大会をやるようになって、東京をはじめ各地にも広まってきたし、みんなが腕を競うからどんどん進歩しています。黒澤さんは海外でも活動しています。だけど、全体には活動の場が少ない。今回のような演奏会をきっかけに広まっていけばと思います。



牧野篤司さんと光江さんご夫妻

仏教あれこれ

11 聖徳太子 その2 (聖人伝説)

聖徳太子といえば、右のような伝説が昭和の時代まで言い伝えられてきました。また、聖徳太子の業績として、「冠位十二階制定」「憲法十七条制定」「遣隋使派遣」「法隆寺創建」などがあげられています。

では、なぜ聖徳太子を何でもできてしまうスーパーマンのように、ことさら聖人に見立てようとしたのでしょうか。

聖徳太子の公式の名前は、8世紀前半成立の『古事記』では「かみつみや の うまやとのとよ と みみの上宮之厩戸豊聡耳命みこと」、『日本書紀』では「うまやとのとよ と みみのみこのみこと厩戸豊聡耳皇子命」と記されています。「厩戸」は彼を養育した豪族の地名や職名に由来するのが一般的ですが、どうもそれらしき豪族が見当たらない。でも地名に「うまやさか厩坂」という場所があるのでそこに由来するのではないかとする説もありますが、はっきりしたことはわかりません。わからないから後の人が馬小屋の前で生まれた(聖人にはよくある)という話を作り上げたようです。また、「豊聡耳」は「とよ・と・みみ」と分解しますが、「とよ」は褒めていう呼び方、「と」は何の意味かわかりませんが、「みみ」は神やその威勢をあらわす「み」を重ねていったもので、「と」も同様の語義だったと考えられます。この「と」をあらわすのに「聡」の字をあてたために、生まれながら言葉を話し、聖人の智をそなえていたという太子の聡明さを語る伝説が生み出されたといわれます。また、「みみ」には本来の意味とは関係なく耳の字をあてたので、太子は特別に聴覚のすぐれた人だったに違いないとされたのです。

また、業績についてですが、いずれも『日本書紀』では「聖徳太子がやった」とは書かれていません。最近の研究では、推古王朝は推古天皇・そがのうまこ蘇我馬子・厩戸王 3者の共同体制による運営が妥当と考えられています。

ということで、彼が生きている間は、どうも普通よりもちょっと秀でた程度の皇子だったのではないかなと思ってしまいますね。でもなぜ死後 80 年ほどたってからこれほどの聖人となっていたのでしょうか。不思議です。

よく知られる肖像画も、聖徳太子を描いたものかどうか不明といわれ、すくなくとも飛鳥時代のものではないようです。

聖徳太子の伝説

- ①母が宮中の厩うまやの戸にあたった時に安産で生まれた
- ②生まれながら言葉を話すことができ、聖人の智を持っていた
- ③耳がよく、成人後は十人の訴えを聞き分けた
- ④未来のことを予言できた
- ⑤父の用明天皇に寵愛され、幼少期は特別に上宮とよばれる宮殿に住まわされた



参考：歴史人電子版『大人の歴史学び直し』シリーズ「聖徳太子」、他

形原町 鈴木祥司

〔本の紹介〕

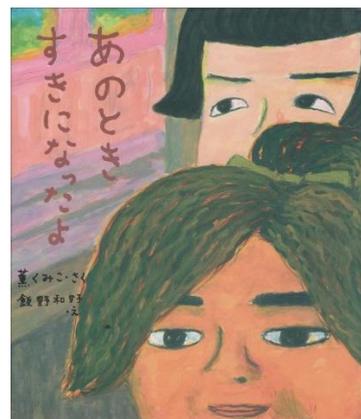
『あのときすぎになったよ』 黛くみこ・さく 飯野和好・え 教育画劇

わたしのせきは はじっこで
うしろのせきに しっこさんがいる。
ほんとは「きくちまりか」なんだけど、
おしっこもらしてばっかりいるから
「しっこ」ってなまえにされちゃった。
でも、わたしは「きくちさん」ってよぶ。

この絵本を読むたびに思い出す友だちがいる。小学校時代、中学校時代、いつもその子はそばにいた。一緒にリコーダーを吹きながら帰った。橋のたもとで、大きくなったら何になりたいか話した。学校を休んだとき、校舎の窓から大きな声で私の名前を呼んでくれた。一緒に卒業文集を作った。

人生には、いろんなしあわせがあると思うけど、こんな友だちがいてくれて、私は本当に幸せだと思う。さて、新学期が始まりました。あなたの友だちは、どんな友だちですか？

友だちは、一生の宝物。すてきな友だちができるといいですね。



(形原町 鈴木 真理)

《ご案内》

合同墓を拡張

林光寺墓地の中の合同墓が
いっぱいになったため拡張しました。

お墓を相続することが困難など

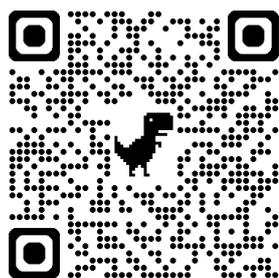
困っておられる方は林光寺までご

相談ください。



林光寺のホームページができました

左のQRコードを読み取ってみてください



又は

真宗大谷派 林光寺 検索



二〇二五年度林光寺行事予定

◆ 真宗の集い

6月17日(火) 午後1時半
法話 ジェシー・釋萌海 師

◆ 夏の法話会

7月5日(土) 午後1時半

法話 松林 至 師
(安城市西岸寺住職)

◆ 盂蘭盆会

8月15日(金) 午前8時

◆ 秋季彼岸会・永代祠堂経

9月20日(土) ～ 26日(金)

26日午後1時半 法話 三浦真教 師

◆ 報恩講

12月11日(木) ～ 14日(日)

11日午後1時半 法話 榎野明仁 師

12日午後1時 法話 大橋恵真 師

13日午後1時 法話 竹中慈祥 師

午後3時 御伝鈔 柴田俊史 師

14日午前8時 法話 織田慶雄 師

午後1時 法話 尾畑文正 師

◆ 修正会 1月1日(木) 午前9時

◆ 春季彼岸会・永代祠堂経

3月17日(火) ～ 23日(月)

23日午後1時半 法話 青木 馨 師

◆ 声明練習会 未定

◆ 日曜日おつとめの会

毎週日曜日午前8時

どうぞ、お参りください。

初盆のお参りについて

今年初盆を迎えるご家庭には8月13日から16日の間にお参りに伺います。ご希望の方は寺までご連絡ください。

《お庫裡から》

飼い犬のランが今月とうとう十六歳の誕生日を迎え、中身も外見もすっかり老犬になりました。人間でいうと八十七歳くらいだそうですね。そういう自分も還暦を過ぎ、すでにシニアの仲間入り。気持ちは若いつもりでも、悲しいかな体がついていかずちよつとした段差につまずいたりすることも。以前はもっと動けたはずなのにと思うこともしばしばです。

七十代八十代の方からすれば、まだまだと思われるかもしれませんが……。

自分の代わりはいないので、これからも健康に気をつけて頑張らないと思う毎日です。

(宏美)